

東京からこんにちは

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さの可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

会員倍増、情報交流 通じ、絆深める

静岡県在京企業交流会 東京事務局長

原 初典さん

支店長の裁量で入会を

大手信託銀行に入学し、高卒採用の同期130人のトップを切つて支店長に。同期の中で支店長に就いたのは原さんを含め2人。その後、大卒ポストとされるグループ会社の役員に抜擢された。

61歳の時に一念発起して大学(通信制)に進学。40年余ぶりの語学のブランクなどを克服、脱落者約93%(当時)という厳しい現実を乗り越え卒業した。67歳だった。「定年を間近に控え何か大きな忘れ物をした気持ちに襲われ、息子の後押しもあり決断しました」。

在京企業交流会は、静岡県内に

本社、事業所があり、首都圏に支店などを持つ企業が会員。講演会や公共施設の見学会などを通じ会員相互の交流を図っている。3月1日現在の会員は88社。半数以上の49社が静岡市関連の企業で、このうちの23社は原さん自ら勧誘。事務局長就任4年で会員を倍に増やした。

ただ、中には「うちは営業部隊しかないので入会の話は直接、本社と話してほしい」と本社に丸投げする支店長らもいるといい、残念が

る。「営業経験の長い私からすれば、営業部隊ほど情報が手に入る会合

には参加すべきなんです」。

実際、原さんは支店の法人営業担当当時、さまざまな会合に顔を出して人脈をつくり、いくつもの大口契約をまとめ全国の支店トップの成績に輝いた。

「私はどちらかというトズバズバ攻めていく営業のタイプですから、余計はがゆく思うのかもしれませんが。本社任せの対応ではなく、自らの判断で入会し、講演会だけでなく懇親会にも積極的に出て、情報の入手、会員の方々との絆を深めていただきたいと思います。先日も交流会の縁で取引ができましたなど、新規会員の方から感謝されました」。

人が巡回できる交通網に

まちづくりに関して、「JR静岡駅と静岡の新静岡駅の間を、例えば動く歩道で結ぶなどして、JR静岡、新静岡、新清水、JR清水の各駅を、山手線じゃないですけど、ぐるっと巡回できる交通ネットワークが実現できたらいいですね」と話す。さらに人の流れを、「清水港に寄港する大型客船とうまくリンクさせて、清水銀座などの活性化につなげてほしいですね」。清水振興論にも力が入る。

(文写真:長田義明)



Hatsunori Hara

由比町(現静岡市清水区)生まれ。1965年、県立静岡商業高校卒業後、三井信託銀行株式会社に入社。静岡支店、名古屋支店次長兼名古屋年金営業部長、船橋支店長、本店年金営業推進部長、グループ最大の三信振興株式会社取締役損害保険部長、2007年、中央三井信託銀行に転出、確定拠出年金部長(401Kセミナー担当)などを経て、14年、静岡県在京企業交流会東京事務局長に就任。71歳。08年、法政大学通信教育部経済学部商業学科に入学、14年、卒業。1級DCプランナーなど多くの資格を持つ。静岡同窓会関東支部副支部長。連絡先:静岡県在京企業交流会東京事務局 電話03(3556)7715